

# 麻しん・風しん対策への 取組状況と評価について

第2回麻しん・風しん対策推進会議  
平成28年1月25日

厚生労働省 健康局  
結核感染症課・健康課 予防接種室

# 麻しんに関する特定感染症予防指針の改正（概要）

## ○目標

平成27年度までに麻しんの排除を達成し、世界保健機関による麻しんの排除の認定を受け、かつ、その後も麻しんの排除の状態を維持することを目標とする（注）。

## ○届出・検査・相談体制の充実

医師による麻しんの届出に当たっては、可能な限り、診断後24時間以内に臨床診断としての届出、血清IgM抗体検査等の血清抗体価の測定の実施及びウイルス遺伝子検査用の検体の提出を求め、麻しんではないと判断された場合には届出の変更や取下げを求めることとする。

また、可能な限り、国立感染症研究所等において、遺伝子配列の解析を行う。さらに、都道府県等は、麻しん対策の会議を設置した上で、地域における施策の進捗状況を評価するものとし、必要に応じて、関係団体と連携して、麻しんの診断等に関する助言を行うアドバイザー制度の設置を検討するものとする。

## ○第1期及び第2期の定期接種の接種率目標(95%以上)の達成・維持

麻しんの予防接種を2回接種することと、その接種率を95%以上とすることが重要であることから、引き続き、文部科学省等と連携し、第1期及び第2期の接種率目標の達成と維持を行う。

（注）平成24年に世界保健機関西太平洋地域事務局より新たな定義として「適切なサーベイランス制度の下、土着株による感染が1年以上確認されないこと」が示され、また、麻しん排除達成の認定基準として「適切なサーベイランス制度の下、土着株による感染が3年間確認されず、また遺伝子型解析により、そのことが示唆されること」が示された。現在、同機関による排除認定作業が行われている。

# 麻しんに関する特定感染症予防指針の改正（概要）

## ○第3期及び第4期の定期接種の時限措置の終了と今後の新たな対策

5年間の時限措置の実施により、10代の年齢層に2回目の接種機会が与えられ、多くの者が接種を受けた。その結果、当該年齢層の麻しん発生数の大幅な減少と大規模な集団発生の消失、抗体保有率の上昇を認めたことから、時限措置を行った当初の目的はほぼ達成することができたと考えられる。

一定程度の未接種者の存在が課題として残るが、時限措置を延長することで得られる効果が限定的と予想されることや、海外からの麻しんの輸入例が中心となりつつある現状及び特定の年齢層に限らず全ての年齢層に感受性者が薄く広く存在することが示唆されていること等を踏まえ、時限措置は当初の予定どおり平成24年度をもって終了することとする。

今後は、麻しん患者が一例でも発生した場合に、積極的疫学調査の実施や、周囲の感受性者に対して予防接種を推奨することも含めた対応を強化する必要がある。

## ○国際貢献

国際機関と協力し、麻しんの流行国の麻しん対策を推進することは、国際保健水準の向上に貢献するのみならず、海外で感染し、国内で発症する患者の発生を予防することにも寄与する。

そのため、国は、世界保健機関等と連携しながら、国際的な麻しん対策の取組に積極的に関与する。

## ○排除認定会議の開催

国は、麻しんが排除・維持状態かを判定し、世界保健機関に報告する排除認定会議を設置する。

## ○普及啓発の充実

厚生労働省は、文部科学省や報道機関等の関係機関との連携を強化し、国民に対し、麻しんとその予防に関する適切な情報提供を行うよう努めるものとする。

# 風しんに関する特定感染症予防指針（概要）

## ○目標

早期に 先天性風しん症候群の発生をなくすとともに、平成32年度 までに風しんの排除を達成することを目標とする。

## ○ 定期予防接種の接種率目標(95%以上)の達成・維持

風しんの定期接種（1歳児、小学校入学1年前の2回）の接種率をそれぞれ95%以上とする。

## ○ 成人に対する抗体検査・予防接種の推奨

企業等と連携し、雇用時等の様々な機会を利用して、従業員等が罹患歴又は接種歴を確認できるようにするとともに、いずれも確認できないものに対して、抗体検査や予防接種を推奨する。

（注）平成26年度については、検査費用の助成を実施（平成25年度補正予算 約12億円）

## ○ 先天性風しん症候群の児への医療等の提供

日本医師会や関係学会等と連携し、先天性風しん症候群と診断された児が症状に応じ適切な医療や支援制度を受けられるよう、情報提供及び制度のより適切な運用等を行う。

## ○ 公布日

平成26年3月28日（平成26年4月1日適用）。

# 通知及び事務連絡等

- 平成27年11月4日事務連絡「乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチンの製造販売業者による自主回収への対応について(情報提供)」
- 平成27年10月30日通知「乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチンの製造販売会社による自主回収への対応について(協力依頼)」
- 平成27年8月20日「麻しん及び風しんの定期接種(第2期)対象者に対する積極的な勧奨等について(依頼)」
- 平成27年3月27日プレスリリース「世界保健機関西太平洋地域事務局により日本が麻しんの排除状態にあることが認定されました。」

# ワクチンの需給状況

麻しん及び風しん含有ワクチンの販社による医療機関納入実績及び定期接種実施者数  
平成24年度まで定期接種として3期、4期接種を実施

|             |                 | 平成23年度    | 平成24年度    | 平成25年度    | 平成26年度    |
|-------------|-----------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| M<br>R<br>+ | A. 医療機関納入実績     | 4,334,630 | 4,248,800 | 3,362,587 | 2,267,636 |
|             | B. 定期接種実施者数     | 4,072,542 | 4,161,124 | 2,028,342 | 2,141,813 |
|             | A - B(推計任意接種者数) | 262,088   | 87,676    | 1,334,245 | 125,823   |
| M<br>R<br>+ | A. 医療機関納入実績     | 4,343,355 | 4,321,896 | 3,372,840 | 2,316,108 |
|             | B. 定期接種実施者数     | 4,074,162 | 4,162,958 | 2,028,316 | 2,141,713 |
|             | A - B(推計任意接種者数) | 269,193   | 158,938   | 1,344,524 | 174,395   |

MR: 麻しん風しん混合ワクチン M: 麻しんワクチン R: 風しんワクチン

- 平成25年度には麻しん及び風しん含有ワクチン共に推計任意接種数が大幅に増加した。
- 平成26年度には麻しんワクチンと比べて、風しんワクチンの需要が高いものの、推計任意接種数は減少した。

# 風しんの抗体検査事業等について

## 1. 背景

平成25年の風しんの流行により、14,000人以上の風しん患者と45人の先天性風しん症候群(※)患者が報告された。  
※ 風しんウイルスの胎内感染によって先天異常を起こす感染症

## 2. 目的

予防接種が必要である者を抽出するための抗体検査や情報提供を行うことにより、効果的な予防接種を実施し、風しんの感染予防やまん防止を図る。

## 3. 内容

風しん予防の普及啓発活動を実施し、風しん抗体検査を受検していただく。

① 主として妊娠を希望する女性に対する風しん抗体検査費用の助成

② ホームページ等の媒体を通じた風しん予防の普及啓発活動

予防接種(任意接種)  
の実施

風しん患者  
全体の減少  
につなげる。

平成26年度に106,684名の検査実施実績、特定感染症検査等事業として事業継続

# 風しんの推定感受性者数

- 平成26年流行予測調査結果及び総務省統計局人口推計(平成26年10月1日時点)日本人人口から感受性者数(HI<8倍)を推計。
  - 20-49歳の感受性者割合は男性13.26%、女性3.83%
  - 20-49歳の推計感受性者数は  
男性3,127,482人、女性871,997人、合計3,999,479人

| 推計感受性者数  | 平成20年* | 平成24年* | 平成25年 | 平成26年 |
|----------|--------|--------|-------|-------|
| 20-49歳男女 | 503万人  | 475万人  | 412万人 | 400万人 |

\*第5回風しんの小委員会(H20年)及び職場における風しん対策ガイドライン(H24年)より引用

# 普及啓発及び広報活動

## 【ドラマとタイアップしたキャンペーンを実施】

- TBSテレビのドラマ「コウノドリ」とタイアップ企画を実現。
- TBSドラマ「コウノドリ」タイアップリーフレット作成
- 台本作成から企画に参画し、劇中で風しん予防を呼びかけるメッセージを発信
- 主演の綾野剛さんが塩崎厚労相を訪問、サイン入りポスターを贈呈（50報道以上のメディア露出）
- 大阪で予防啓発セミナーを開催（200人以上の参加）
- ツイッターで啓発メッセージを発信



# 普及啓発資料

- ・ 特設サイトの開設
- ・ 「コウノドリ」タイアップリーフレット作成
- ・ 大阪での予防啓発セミナーの動画をアップ



金曜ドラマ  
**コウノドリ**  
命についてのすべてのこと

ボクらは毎日、  
奇跡のそばにいる――

10.16 金曜 10時 START TBS 60  
(※朝日放送系)

生まれてくる赤ちゃんのためにできること  
赤ちゃんを風しんから守るため、  
予防接種をご検討ください。

■ 20~40代の女性の約14%は、  
風しんの感染予防に十分な抗体を持っていません。  
\*2014年度感染症流行予測調査

■ 妊娠中、特に妊娠初期に風しんにかかると、  
赤ちゃんに難聴、心疾患、白内障などの障害  
(先天性風しん症候群)が出る可能性があります。

風しんについて、もっと詳しくはこちらへ →  
風しん 厚生労働省

ひと、くらし、みらいのために

厚生労働省  
Ministry of Health, Labour and Welfare

文字サイズの変更 標準 大 特大 🔍 調べたい語句を入力してください 🔍 検索

御意見募集やパブリックコメントはこちら 国民参加の場

♡ 風しんの感染予防の普及・啓発事業

→ TOP → 風しん・先天性風しん症候群とは? → なぜ大切? 風しんワクチン → お近くの保健所検索 → Q&A → ダウンロード・リンク集

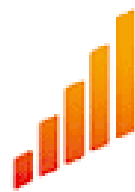
妊娠初期の女性が風しんにかかると、  
生まれてくる赤ちゃんが「先天性風しん症候群」になる確率

妊娠1ヵ月で  
**50%以上**

※  
※

スペシャルコンテンツ  
数字でわかる!!  
風しん・先天性風しん症候群  
click!

赤ちゃんが生まれながら持つ病気「先天性風しん症候群」。  
この病気から未来の赤ちゃんを守るために、妊娠を望む女性は  
もちろん、みんなまでその症状や原因を理解し、  
風しんを予防していくことが大切です。



- 経済産業省による東京証券取引所と共同の取組みで、従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる企業を「健康経営銘柄」として選定し、公表することで、企業の健康経営の取組が株式市場等において、適切に評価される仕組みづくり。

企業に対するアンケート調査における、感染症対策に関する項目の一例

感染症対策

Q36. どのような感染症(インフルエンザなど)対策を実施していますか。

(いくつでも)

- ☐ 1. インフルエンザなどの予防接種を社内実施
- ☐ 2. インフルエンザなどの予防接種の費用補助
- ☐ 3. 予防接種を受けるための就業時間認定または特別休暇などの制度的配慮(家族への付き添いを含む)
- ☐ 4. インフルエンザなどの感染症を発症した者(家族が発症した場合も含む)への特別休暇制度による感染拡大予防
- ☐ 5. 健康診断時の麻しん・風しんなどの感染症抗体検査の実施
- ☐ 6. うがい薬・消毒液の設置
- ☐ 7. マスクの配布
- ☐ 8. 感染拡大時の事業継続計画の策定
- ☐ 9. その他(具体的に)
- ☐ 10. 特に行っていない

# 今後の主な対策と課題について

## 【目標】

- ・ 麻しんの排除状態の継続及び風しんの排除。

## 【主な対策】

- ・ 定期接種率の維持及び向上
- ・ 患者発生の把握及び迅速な感染拡大措置
- ・ ホームページ等による普及啓発
- ・ 妊娠を希望する女性を主な対象とした風しんの抗体検査費用の助成事業の継続。

## 【課題等】

- ・ 流行がみられない中での普及啓発と社会全体での対策の推進。
- ・ 検査診断による風しんの届出